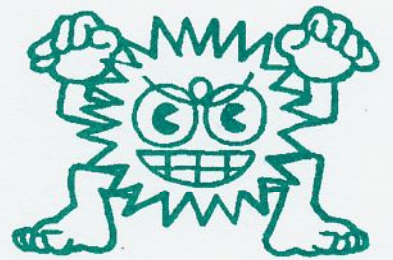
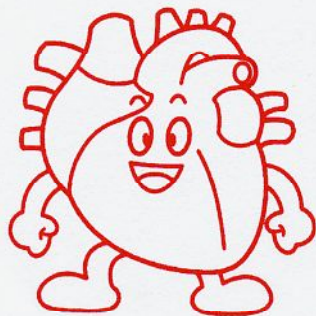


## インフルエンザは変異して免疫をすり抜ける!

私たちの免疫が正常であるならば、ひとつの病原体に対して一度感染したらその防御力は飛躍的にアップしています。ですから今年のインフルエンザにもう一度かかることは(短期的には)まずありません。しかし、インフルエンザウイルスやかぜウイルスは、毎年微妙にその抗原性を変化させている、つまり常に新種のウイルスとして発生しているのです。ひとつの生物がその遺伝子を微妙に変化させて新しいタイプになることを突然変異といいます。人間のような高等生物で大きな変異を生じることはありませんが、ウイルスのような下等生物では、そのような変異が自然界で勝手に行われているのです。



## 動悸を感じるとは



心臓の変調による病態として動悸がありますが、動悸とは、通常は自覚しない心臓の拍動を自覚し、それを不快と感じることです。動悸にはいろいろな種類のものがあり、ただ単に脈が速くなるのも動悸ですし、リズムが乱れて急に大きな心臓の収縮が起こることも動悸といいます。心臓の働きは普段は全く気付きませんが、それは心臓が一定のリズムで動いているからです。このリズムが急に変わった時に、私たちは心臓の動き、つまり心臓の存在を意識することになります。規則正しいリズムで動いている心臓の拍動が途中で抜けると、次の1拍は強く収縮することになりますが、それも動悸として感じます。この現象は、休止期の間に心臓に戻ってきた大量の血液を送り出す必要があるために生じます。また、動悸は交感神経の興奮によって心臓の拍動が強まることでも起こります。例えば、血圧が低下すると、血圧を一定に保とうとする血圧反射が起こり、交感神経が興奮するので心臓の拍動は強まります。



## 交感神経優位と粘膜過敏

頻尿や残尿感を訴える人が、器質的な異常や細菌感染もなければ過活動膀胱などを疑いますが、実は尿道の粘膜過敏が推測されます。膀胱も交感神経の支配を受けているので、ストレスが加われば交感神経優位になり、少しの刺激にも過剰に反応すると考えられるからです。それは胃も同様で、器質的な異常のない胃のむかつきや吐き気、あるいは胸のつかえには、胃食道の粘膜過敏が考えられます。またそうした症状があると、飲み込みが悪くなり、飲食物と一緒に空気を飲み込む量も増えるため、お腹にガスが溜まりやすくなります。こんな症状には漢方薬が効くのです。

### 全国の処方せん受付中

東北大学病院 国立仙台病院 市立病院  
東北公済病院 労災病院 開業医院など

